

第7回 ITS地域交流会 in 仙台2014



～ 東北地方の復興まちづくりに、進化するITSの活用を考える ～

開催日時 2014年 12月 5日(金) 13:10~16:30

開催場所 トラストシティカンファレンス・仙台

主催共催 主催 特定非営利活動法人 ITS Japan

後援 宮城県 東北大学未来科学技術共同研究センター

※プログラムは予告なく変更する場合があります

参加者:主として宮城県内自治体の産業振興、復興まちづくり、都市・交通政策、防災・情報政策の担当者、ITS/ICTによる街づくりに関心がある県内事業者を対象。定員 60名 参加無料。

- 受付 12:45 -
- 開会 13:10 - 13:20
開会挨拶 特定非営利活動法人 ITS Japan 常務理事 大月 誠
- 第I部 講演 13:20 - 14:40
- 「復興まちづくりと移動の課題」
モータージャーナリスト 両角 岳彦
- 「小型EVバスを活用した災害に強いまちづくり」
工藤電機 株式会社 取締役会長 工藤 治夫
- 「コミュニティ・カーシェアリング ～高齢化社会に残すべき移動の仕組み～」
一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事 吉澤 武彦
- 「地域のコミュニティを活性化する移動サービス ～ナビチャリの活用事例～」
株式会社フォルテNEXT 取締役 葛西 純
- 休憩 14:40 - 14:55
- 第II部 ディスカッション 14:55 - 16:25
～移動しやすく災害に強い安全なまちづくり～
- 進行、モデレータ
東北大学教授 未来科学技術共同研究センター 副センター長 鈴木 高宏
- グループディスカッション (45分)
(講演内容や事例紹介、地域の交通課題について、参加者同士で議論)
- ※複数のグループに分かれて、講演の内容、復興まちづくりや地域の交通や防災の課題について
討議し、情報共有を図るとともに、登壇者からのアドバイス、コメントを得る事で、理解を深めます。
- パネルディスカッション、全体ディスカッション (45分)
(登壇者や他の参加者との討議、質疑応答)
- 閉会 16:25 - 16:30
閉会挨拶
- 意見交換会 (会場はP4のアクセスマップを参照下さい) 17:00 - 19:00 (変更)

第7回ITS地域交流会in仙台2014

講演と講師のプロフィール

講演1	復興まちづくりと移動の課題	両角 岳彦
<p>モータージャーナリスト 大学・大学院で自動車工学を専攻。自動車専門誌を経てフリーの取材記者、自動車評価者、編集者、評論家として著書多数。東日本大震災の被災地を巡り、クルマと移動、コミュニティ再生、復興の課題などを取材・制作したドキュメンタリー番組「大規模災害と道、そして車」が放送された。</p>		
講演2	小型EVバスを活用した災害に強いまちづくり	工藤 治夫
<p>工藤電機 株式会社 取締役会長 経営者としてオンリーワン製品を生み出すとともに、ものづくり、環境、地域社会が目指すべき姿などについて、産官学と連携して具体的取り組みを実践している。 宮城産業人クラブ会長、みやぎ工業会理事、太白少年少女発明クラブ会長</p>		
講演3	コミュニティ・カーシェアリング ～高齢化社会に残すべき移動の仕組み～	吉澤 武彦
<p>一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事 東日本大震災後、石巻市で仮設住宅等にカーシェアリング用車両を無償で貸し出す活動を行う。この活動は、被災地以外でもEVの活用やコミュニティ形成のモデルとなると期待されている。 一般社団法人OPEN JAPAN 代表理事</p>		
講演4	地域のコミュニティを活性化する移動サービス ～ナビチャリの活用事例～	葛西 純
<p>株式会社フォルテNEXT 取締役 総務省地域情報化アドバイザー 特定非営利活動法人 ソーシャル・キャピタル・サービス青森 副理事長 特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会会員</p>		
モデレーター		鈴木 高宏
<p>東北大学未来科学技術共同研究センター副センター長／教授 東京大学生産技術研究所准教授から2010年に長崎県産業労働部政策監として出向。 五島列島に100台以上のEV(電気自動車)とITSを導入し、先進技術による地域活性化モデルを構築するEV&ITS(エビッツ)プロジェクトを推進。その後、東京大学に1年戻った後、今春より現職。 専門はロボット制御、ITSなど。</p>		

*グループディスカッションについて

ITS地域交流会の特徴の一つは参加者が複数のテーブルに分かれて行う「グループディスカッション」。日頃机を並べる事が少ない者同士が同じテーブルに座り、地域の交通や移動の課題、困っている事、解決できそうなアイデア、などを「個人」として自由に発言いただきます。知らなかった問題に気付き、共通の悩みを持つ人を知り、解決の糸口を得るきっかけや、頼りになりそうな人、次へのアクションが見えたら大収穫。